

有明海漁業実態調査

コノシロ漁獲状況調査

野間昌平

コノシロ *Konosirus punctatus* は、有明海の重要な水産資源の一つであり、最盛期には約 2,000 トンの漁獲量があったが、2017 年には 546 トンまで減少している¹⁾。コノシロを今後も持続的に漁獲利用していくためには、資源管理対策を講じていく必要があるが、これまで有明海におけるコノシロの漁獲動向に関する研究は、田北²⁾や寺田ら³⁾の報告に限られており、漁獲動向について把握するには、更なる情報の蓄積が必要となる。そこで、漁業者に操業船日誌の記入を依頼し、操業状況を調査したので報告する。

方法

調査では、佐賀県有明海漁業協同組合大浦支所に所属する投網漁業者2名および雑魚一重流し刺網（以下、流し刺網とする）漁業者1名を選定し、2020年4月～2021年3月までの出漁日に漁獲量および漁獲場所について操業船日誌の記入を依頼した。得られた情報を基に漁法別に毎月の平均漁獲量（1人当たりの漁獲量）およびCPUE（1人1日当たりの漁獲量）、海域別漁獲量を推定し、漁獲状況を明らかにした。

結果

投網における月別の平均漁獲量およびCPUEを図1に、流し刺網における漁獲量およびCPUEを図2に示す。

投網漁業は周年を通して行われており、その平均漁獲量は、4月から5月にかけて2,634 kgから1,280kgに低下したが、6月および7月に約4,000 kgまで増加した。8月から3月にかけては、12月の2,251 kgを除くと544～1,490 kgで推移した。CPUEは、平均漁獲量と相関して50～400 kg / 人/日で推移した。

流し刺網漁業は、4月から6月に操業され、その漁獲量は、4月で479 kg、5月で578 kg、6月で143 kgとなった。CPUEは、4月に32kg/人/日と最も高く、6月にかけて20 kg / 人/日へと減少した。

投網における月毎の海域別漁獲量を図3,4に、流し刺網における月毎の海域別漁獲量を図5に示す。自由漁業である投網漁業は、年間を通して熊本県白川・緑川河口域～菊池川河口域で操業され、4月～10月にかけては、

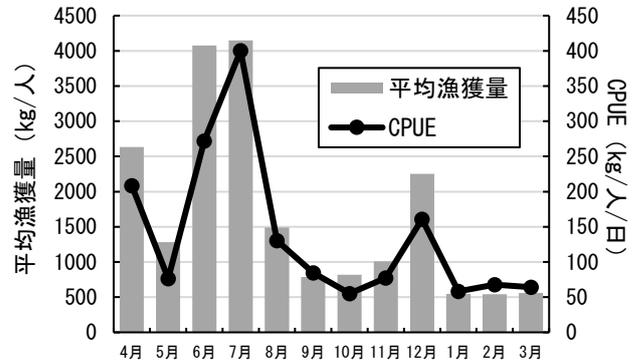


図1 投網による平均漁獲量およびCPUE(1人1日当たりの漁獲量)の月別の推移

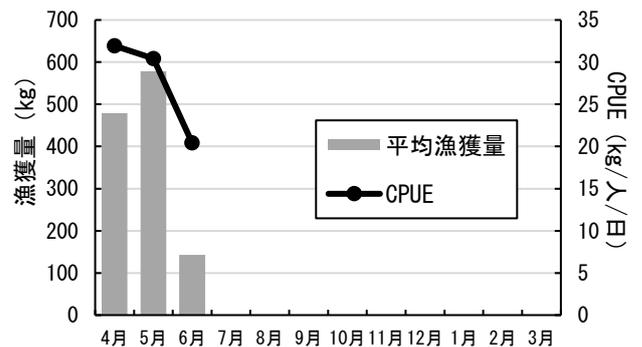


図2 流し刺網による平均漁獲量およびCPUE(1人1日当たりの漁獲量)の月別の推移

福岡県大牟田沖、佐賀県六角川河口域で、長崎県諫早沖においても操業されており、春季から秋季にかけて漁場が湾奥部へと北上し、冬季にかけて南下する傾向が見られた。

流し刺網漁業は、4月から6月に、佐賀県大浦沖から六角川河口域にかけて操業され、漁場が北上する傾向が見られた。

文献

- 1) 農林水産省(1980～2019):第26～67次佐賀県農林水産統計年報.
- 2) 田北徹(1978):有明海産コノシロの増殖生態I,長崎大学水産学部研究報告.(45),5-10.
- 3) 寺田雅彦・伊藤史郎(2017):有明海におけるコノシロ投網漁業の実態,佐有水産セ研報.(28),93-98.

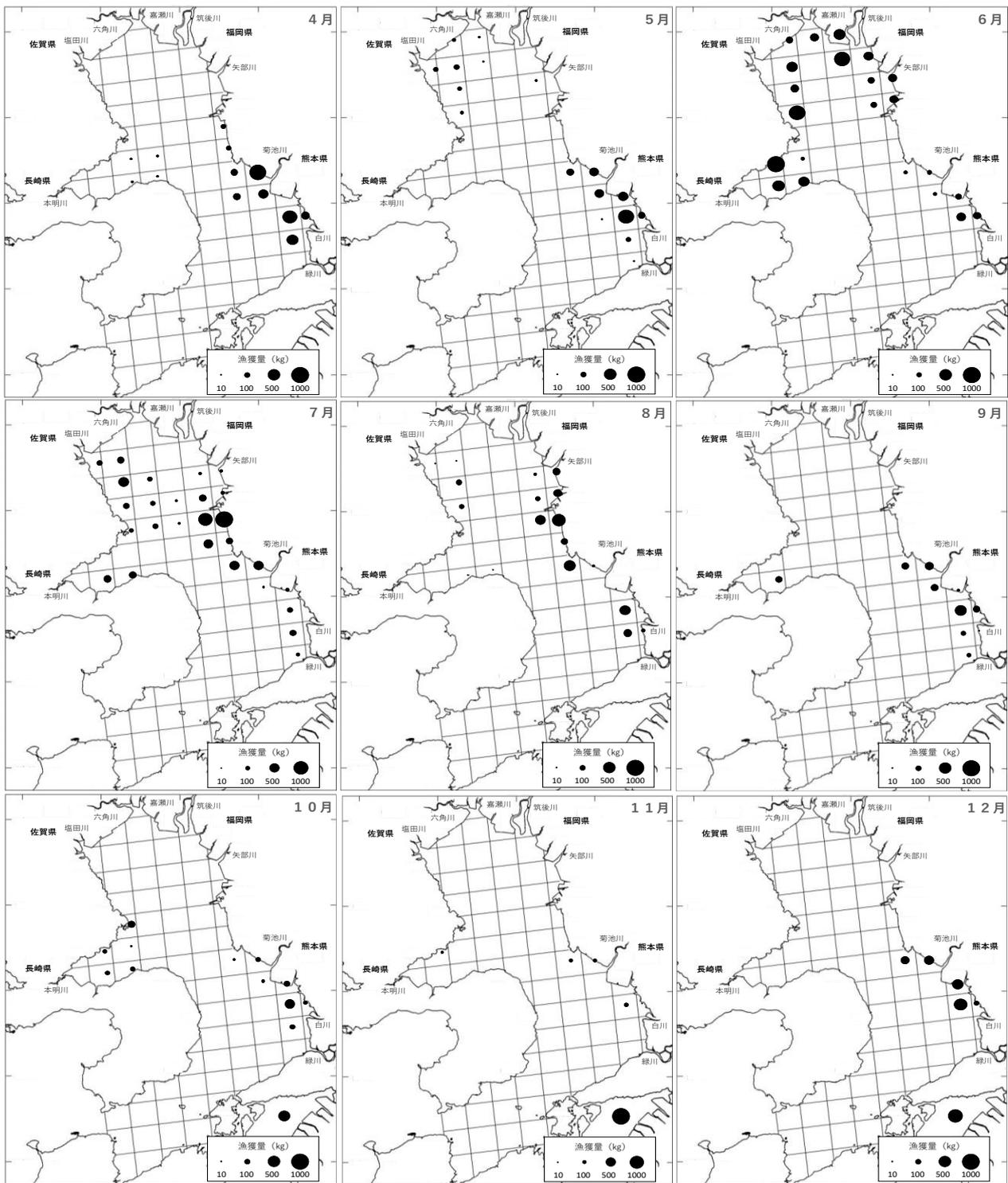


図3 投網の月別海域別漁獲量（4月～12月）

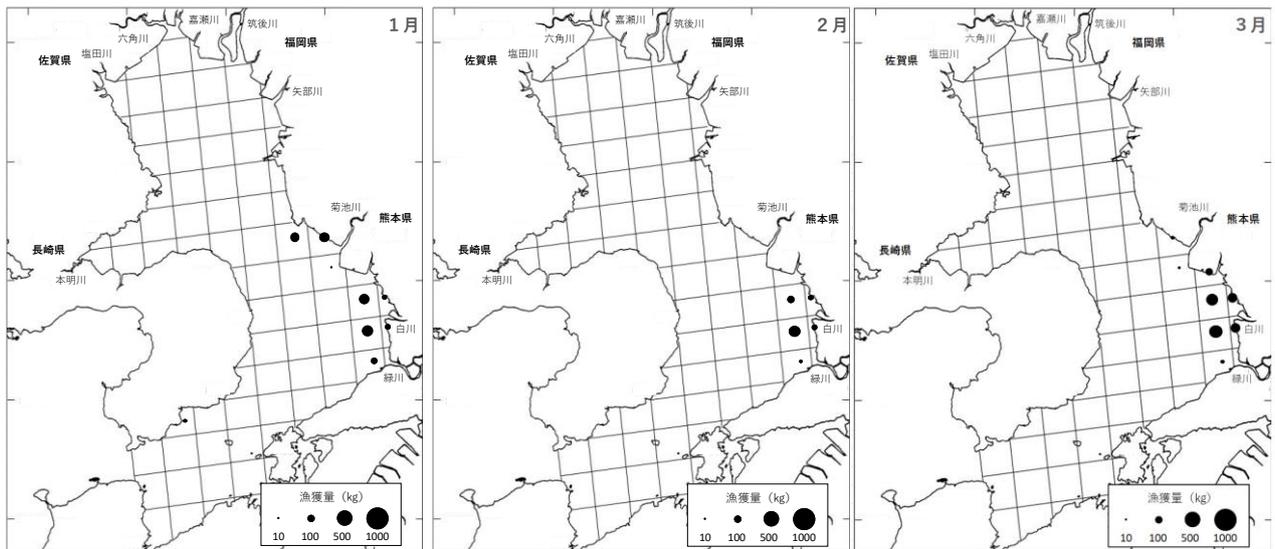


図4 投網の月別海域別漁獲量（1月～3月）

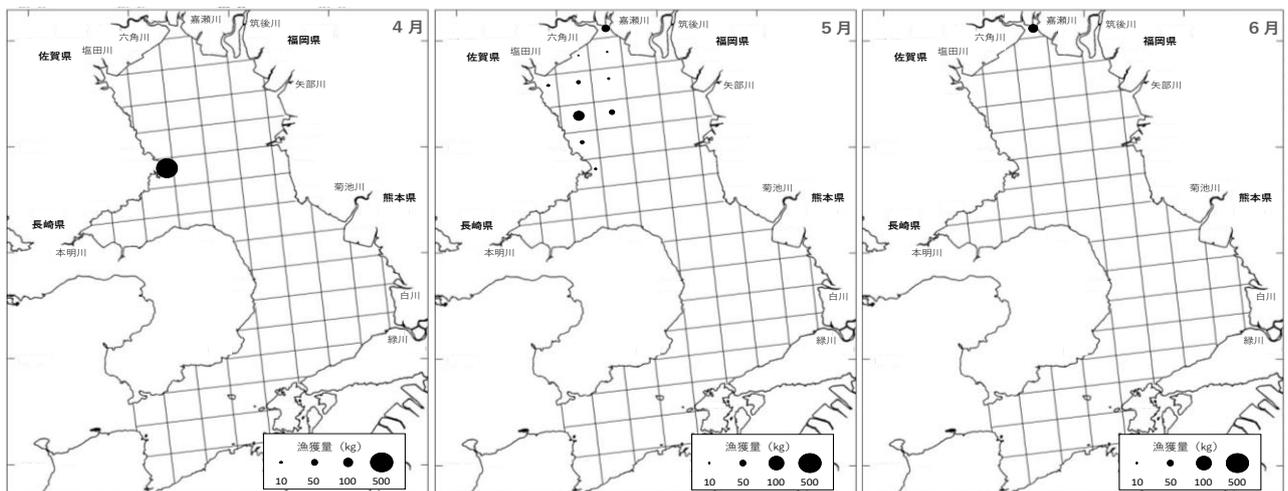


図5 流し刺網の月別海域別漁獲量（4月～6月）